

● Infomation ● イベントカレンダー

湧水サロン「案河子(かかし)」 定例会のお知らせ

サロン「案河子(かかし)」のごあんない <毎月第3金曜日>

湧水の保全のため科学的データを基に議論する 湧水サロン「案河子」も、昨年9月の立ち上げより、既に(昨年いっぱい)4回が開会されました。今年も東久留米市内はもとより、新河岸川流域内の湧水や清流の保全活動等について注目していきますので、湧水保全に興味のある皆さんは奮ってご参加下さい。

日時:平成18年2月17日(金)、3月17日(金) 午後7時~午後9時頃 まで
会場:南沢水川神社社務所(東久留米市南沢3-5-8)ほか
内容:湧水や清流を保全するための議論 など
問合せ:0424-58-1537(前嶋)、0424-75-7643(豊福)

湧水が湧いて水がきれいだと
僕らも気持ちがいいよね~!



エコシティ志木 イベント情報

こどもとおとなの自然塾「冬の渡り鳥を見てみよう」

こ志木にも冬には沢山の渡り鳥が飛来します。毎月の「柳瀬川・野鳥ウォッチング」とは一味違った観察会をお楽しみ下さい!

日時:平成18年2月4日(土) 午前9時~11時半
集合:東武東上線「柳瀬川」駅前 サミット前広場
内容:冬に志木に来る渡り鳥を観察します。
持物:筆記用具、あれば双眼鏡 ※寒さ対策を忘れずに
問合せ:048-471-2211(志木市立教育サービスセンター)

参加費は各回毎200円(家族参加は全員で1名扱い)、NPO法人エコシティ志木、(財)埼玉県生態系保護協会志木支部の主催になります。



柳瀬川・野鳥ウォッチング <毎月第3日曜日>

本紙においても何回か紹介した野鳥観察会!3月からは魚類調査と魚展示も再開しま~す!

日時:平成18年2月19日(日)、3月19日(日) 午前9時~11時半
集合:志木中学校前の柳瀬川土手(志木市柏町3-2-2)
内容:野鳥観察 ※柳瀬川にそって約4Kmを散策しながら調査します。
持物:双眼鏡、あれば野鳥図鑑 ※寒さ対策を忘れずに
問合せ:048-471-4275(毛利)

こちらは、ふじみ環境クラブ、富士見市立水谷公民館他主催になります。

ふじみ環境クラブ イベント情報

石井緑地公園「どんぐり山」の自然体験&柳瀬川の冬鳥観察

日時:平成17年2月5日(日) 午前9時半~12時頃まで
場所:石井緑地公園「どんぐり山」の下入口(富士見市大字水子字石井4382外)
持物:双眼鏡、野鳥図鑑、水筒、寒さ等対策 など
内容:どんぐり山(雑木林)での自然体験、柳瀬川の冬鳥観察
問合せ:049-253-3481(荒田) ※雨天中止



事務局便り

昨年末に連絡会の開催場所をJR武蔵野線と西武池袋線の結節点である「秋津」に移したことが功を奏したのか、11月、12月の連絡会は、いずれも15名を超えるメンバーが集まり、有意義な意見交換ができました。また12月の連絡会からはメンバー間での勉強会も実施しています。

今年の連絡会にもより多くのメンバーにご参加いただき、昨年末にも増して有意義な会が運営できることを願っています。

●連絡先

〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
(国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内)
TEL:03-3902-3220 FAX:03-3902-2346
URL:http://www.ara.or.jp/arage/shingashi/
E-mail:shingashi@ara.or.jp

THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん



VOL.38

発行 ●新河岸川流域川づくり連絡会(荒川下流河川事務所 調査課内)
住所 ●東京都北区志茂5-41-1 TEL:03-3902-3220 FAX:03-3902-2346
発行日 ●2006年(平成18年)1月17日



切り絵 毛利得範

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

それにしてもこの冬は寒いですね~!新河岸川流域の東京西部や埼玉南部はさして雪も降らずに済んでいますが、積雪の多い北海道や東北、信越方面の人々のことを思うと、何とか無事にこの冬を乗り切って欲しいと思います。

さて、今号では、流域の活動紹介の第2弾として白子川での活動を紹介しているほか、昨年末に実施されたイベント等、ホットな話題を満載しております。まだまだ寒さが続くこととは思いますが、本紙「里川」のホットな話題が、皆様のしばしの暖になれば幸いです。

目次

- P2-4 流域の活動紹介 第2弾
~白子川での活動紹介~
- P4 不老川のホームページができました!
- P5 レポート:ポケットパークの植樹
- P6-7 「身近な川の一斉調査2005」
報告会&シンポジウム
- P8 流域イベント・インフォメーション
事務局便り

新河岸川流域 「身近な川の一斉調査 2005」 報告会&シンポジウム

昨年の11月27日(日)には「身近な川の一斉調査 2005 報告会&シンポジウム」が行われました。6月の第1土曜日「世界環境デー」を中心に行なっている新河岸川流域での一斉調査もついに10年目となり節目の年を迎えました。また、全国での一斉調査は2回目となり、参加団体も大幅に増加したようです。以下は報告会当日の様子です。

昨年同様の3部構成で実施した今年の報告会、午前中の第一部は「伝える」をテーマにした小・中・高校生の発表です。志木市立宗岡中学校の科学部、明法学院中学・高等学校 科学部、埼玉県立いずみ高等学校 釣り愛好会 の三校が参加、各校とも、川に関する日ごろの取り組みや一斉調査に参加した時の結果報告などを熱心に発表してくれました。中でもいずみ高等学校 釣り愛好会は川に行く頻度も多いようで、そんな身近な川への親しみや愛着の感じられる発表で参加者の興味を誘っていました。

各校の発表の合間には、全国水環境マップ実行委員会 事務局の佐山さんからの報告をはじめ、資料作成の苦労話や、関連各会を代表する方々からの活動報告などがありました。活動報告からは

一斉調査を中心に据えつつ、川づくりの様々な活動へと広がっている様子が伺えました。

午後からは、第二部として、新河岸川水系水環境連絡会の丹野さんから「一斉調査データから見た今年の特徴」について発表があった後、第三部として、国土交通省の宮武さんから「都市災害と中小都市河川の諸問題について」の講演がありました。

宮武さんは、新河岸川流域川づくり連絡会事務局の母体となっている荒川下流河川事務所調査課の元課長さんだったこともあって、参加者の中には数年前まで共に活動したことを懐かしく感じつつ、親しみを持って話を聞いている人が多くいたようです。「特定都市河川浸水被害対策法」等の興味深い話をしていただき、参加者も熱心に聞き入り、質疑応答においても沢山の質問があがっていました。

(以上が報告会当日の様子になります)



志木市立宗岡中学校
科学部の発表



明法学院中学・高等学校
科学部の発表



埼玉県立いずみ高等学校
釣り愛好会の発表



全国水環境マップ実行
委員会 事務局 佐山さん



新河岸川水系水環境
連絡会の丹野さん



元荒川下流河川事務所
調査課長 宮武
さんの質疑応答の様子

こちらは東久留米市の
環境フェスティバルの様子になります！



このように、アットホームで内容の充実した報告会&シンポジウムでしたが、前ページの当日の様子にも記したとおり、一斉調査自体も様々な活動へと広がりを見せています。

以下は東久留米市で行われた環境フェスティバルの様子になります。東久留米市では一斉調査を環境フェスティバルの一環として実施しました。

東久留米の水質調査にまつわる活動報告 第9回 環境フェスティバル in 東久留米

東久留米市では、平成17年度の「身近な川の一斉調査」を、環境月間の6月の第1日曜日に「第9回 環境フェスティバル」の最初の行事として開催しました。

6月1日付けの市の広報にも大きく取り上げられ、市の協力もあり、市役所のロビーが水質調査の分析会場となりました。

当日は日ごろから川で活動している市民団体等が、早朝から各調査ポイントに向かい、現地で採水と気温・水温・透視度等を測定し、調査シートに現地データを記入した後、市役所に集まり分析しました。

一方、今年も参加してくれた自由学園の生徒さんたちは、主に学校内を流れる立野川を中心に、南沢湧水・落合川を定点ポイントとし、現場で採水等を実施した後、市役所に集まりました。生徒さんはロビーに設けた分析場所に付き、各調査項目ごとの担当に分かれて分析を行いました。昨年参加した生徒は後輩の指導にあたるなど、年間の行事としても徐々に定着しているようでした。

市の環境フェスティバルは、一斉調査の翌週の土・日・月の三日間連続して行われました。土曜日は環境ポスターコンクールの表彰式と柳窪に伝わるお囃子の演舞、日曜日は環境に関わる講演などが行われました。また、夜には「ホタル鑑賞会」が開かれるなど、盛大のうちに幕を閉じました。

また、環境フェスティバルの会場では、東京都から「黒目川の河川整備計画(案)」が公開され、市民からの意見公募がありました。東久留米市でも市民と行政との話し合いを進めて、市長名で同案に対する意見書を提出しました。



市役所のロビーで行われた
水質調査の様子



柳窪に伝わっているお囃子
の演舞



日曜日に開かれた講演会
の様子



子供たちに大人気だった
ホタル鑑賞会

本紙「里川 (Vol. 30)」においても、一斉調査当日の様子をお伝えしましたが、上のレポートからも当日の様子が再認識できたのではないのでしょうか？ 次回の一斉調査は平成18年6月4日(日)を予定しています。詳細は4月以降の本紙においても案内しますので、皆さん奮ってご参加下さい。

～流域の活動紹介 第2弾～

白子川での活動紹介

白子川は練馬区東大泉「大泉井頭公園」の湧水を起点とし、和光市および板橋区を流れ、板橋区三園地先において新河岸川に合流する、流路延長約10km、流域面積約25km²の一級河川です。

一部を除いてコンクリートの三面張り護岸が続く典型的な都市河川ではありますが、流域と河川周辺には多くの湧水ポイントがあり、量の多少を問わなければ80数箇所が数えられる「湧水の川」と言っても過言はないでしょう。

今回は「流域の活動紹介」の第2弾として、そんな白子川での主な活動を紹介します。

湧水の定点観察 (流域内の4つの地区で4団体にて観察)

白子川では流域内の4つの地区において、それぞれ1団体ずつの4団体が中心となり、湧水の定点観察を実施しています。それぞれの定点ポイントは以下のとおりです。

源流部エリア

源流部エリアは大泉井頭公園を中心とする二面張り護岸の多いところで、中島橋付近までは多くの湧水箇所がある貴重な清流の源になっています。カンガレイ、ホトケドジョウ、イトトンボ、コサギ等、多様な生物の生育の場となっています。「白子川源流・水辺の会」主催の「白子川源流まつり」等、地域の活動も盛んです。

観察日：毎月第4日曜日
午後1時～
連絡先：03-3924-9181
または、03-3922-7657
本田 (大泉つつし荘) まで



大泉井頭公園

八の釜憩いの森エリア

八の釜憩いの森エリアは比丘尼橋上流調節池の東側にある「八の釜憩いの森」が中心で、森の緩斜面の裾部にある八の釜の湧き水は、せせらぎを経て白子川右岸に流れ出ています。水辺には、カワモズク、ハグロトンボ、ニゴイ、ウキゴケなどの注目種が生息しています。また、カワニナを放流し、環境改善に努めています。

観察日：毎月第1土曜日、
第3土曜日
午前10時～
連絡先：03-3938-2584
北村 まで

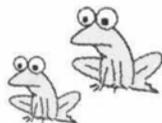


八の釜の湧き水

清水山憩いの森エリア

清水山憩いの森エリアは外環自動車道と笹目通りに挟まれた地域にある、清水山と稲荷山、2つの憩いの森を中心とした、湧水と緑のおりなす、文字通りの憩いの場となっています。キツネノカミソリやイカリソウ等が自生し野鳥も多く飛来するこの場所は、都内でも貴重なカタクリの群生地が開花期には多くの人で賑わいます。

観察日：毎月第4日曜日
午前10時～
連絡先：048-463-9964
鈴木 まで



カタクリの見ごろは3月下旬～4月上旬です！

白子エリア

白子エリアは和光市白子町を中心とする、かつては養魚場や造り酒屋などがあった湧水の豊富なところで、今でも湧水を汲みに来る人が後を絶ちません。カワモズクやカワニナ等、清流の動植物が生息する他、斜面林にはフユノハナワラビ、ツボミスマミレ等が自生しています。民有地が多いエリアで、湧水は消滅の危険にさらされています。

観察日：毎月第2土曜日
午前10時～
連絡先：048-464-5545
須貝 まで



湧水量の計測の様子

白子川湧き水探検隊 (白子川流域の水環境をよくする会)

「白子川流域の水環境をよくする会」では、白子川の湧水量および水質の測定、ならびに白子川の河川水量の測定を目的とした湧き水探検を実施しています。ここでは、昨年11月に行われた湧き水探検の様子を、平成17年12月14日発行の「白子川ニュース (No. 8)」から部分的に抜粋し、掲載させていただきます。 ※写真は事務局にて撮影

11月5日(土)に「白子川の湧き水探検隊」を実施しました。午前中は練馬区 光が丘公園の湧水地点と白子川右岸の湧水ポイント(左岸は過去に実施済み)等を確認し、午後は芝屋橋、人道橋、成和橋で流量測定を行いました。参加者は案内役の坂本さんを含めて12人でした。なお、午後実施した流量測定は、白子川流域協議会発表の調査データと比較検討することを目的に行ったものです。

風もなく暖かな好天の中、午前10時に光が丘公園の出入口に近い牛房バス停前に集合、まずは歩いてすぐ(旭町二丁目11番地)の谷戸に向かいました。ここは、光が丘公園の一角、木々に囲まれた谷間を下ったところの湧水を指しますが、当日の湧水量はほんのわずかでした。次に「はんの木緑地」の湧水に向かいました。こちらは民有地の崖下から湧いているものでかなりの量がありましたが、泥の積もった水路の底から湧いていて測定できる状況ではありませんでした。しかしその水路には小さな流れが生まれていて、少し下ったところにはアメリカザリガニが生息していました。少ないながらもこれらの湧水が白子川に注いでいることを再確認しました。その後は白子川沿いに出て右岸の湧水ポイントを確認しました。白子一丁目の民有地倉庫の裏手から湧水が注ぐのを見た後、白子二丁目の湧水ポイント5箇所を見てまわりました。これらの湧水はいずれも一定の水量を保っているようでした。

牛房コミュニティセンターで昼食をとった後は、坂本さんの指示に従って流量測定を行いました。橋の上から水深を測るヒモを下ろし、左右と中央の3箇所の水深を測り断面積を出すとともに、国分さん持参の流速計を下ろし水流の速さを測ることで地点ごとの流量を計算しました。参加者のほとんどが初めての体験だったようですが、楽しく作業ができました。

今回の調査結果を過去の結果に照らして見ると、各地点とも大きな変化がないことがわかりました。今回の湧き水探検隊を企画した「白子川流域の水環境をよくする会」の代表 須貝さんは、「都市化の進捗中、白子川の流量はかなり減っていると思ったのに大きな変化が無かった..喜んでいいのかわからない不思議な気持ちです」と語っていました。



はんの木緑地裏の水路で湧水を探取しています。



マンションのよう壁からの湧水を見つめています。



湧水量の測定に、ここではビニール袋を用いました。



昔ながらの湧水との関わりに感心する皆さんです。

これらの定点観察以外にも、会員のための勉強会や講師を招いた講演会の開催、会報誌の発行等、白子川の清流と湧水を次世代に引き継ぐべき、様々な活動を行っています。

その他の活動 (八の釜憩いの森を守り育てる会、白子川源流・水辺の会)

白子川ではこれら(前ページ)の活動以外にも、前号で紹介した「白子川源流まつり」等、様々な活動が行われています。

「八の釜憩いの森を守り育てる会」の北村さんは、練馬区内の小学校の総合学習の時間に講師として招かれ、「わたしたちの白子川」をテーマに、練馬区の地形にはじまり、白子川とその沿川の様子を上流から下流までわかりやすく教えています。

「白子川源流・水辺の会」の本田さんは、現状の白子川の生き物たちの様子を少しでも多くの人に伝えたいとの想いから、自ら白子川へ潜り撮影した生き物の映像をDVDにて頒布しています。



◀ 地域の会合で総合学習時の様子等について発表する「八の釜憩いの森を守り育てる会」の北村さん

こちらは「白子川源流・水辺の会」の本田さんがつくるDVD「湧き水が育む白子川の生き物たち」Vol. I, Vol. II ▶



今回は流域の活動紹介の第2弾として白子川流域で活動する各団体の取り組み等を紹介しました。紙面の都合で全ては伝えられませんでした。白子川の湧水や各団体の取り組み等に興味をお持ちになった方がいらっしゃいましたら、是非、2ページ掲載の連絡先までご一報下さい。

不老川のホームページができました!

昨年末に事務局に届きました朗報によりますと..何と不老川のホームページが完成しました。

早速、以下のURLをチェックです!

<http://furougawa.mods.jp/>

トップページ上部には最新情報が横スクロールしていますし、左にはもちろんインデックスも完備。何よりメインに鎮座します自然豊かな不老川の画像が光っていますね~!

作成しているのは「不老川流域川づくり市民の会」の皆さんです。読者の皆さんも、是非、是非、上のURLまでアクセスしてみてくださいネ!

不老川へようこそ 05/12/18 トップページを改訂 05/12/20 市民の会「主な活動」を紹介

はじめまして 私、名を不老川と申します

目次

不老川の紹介

会の紹介

1. 会について

2. 会費

3. 活動

白子川の生き物(リンク先)

歩いてみよう不老川

不老川流域川づくり市民の会 ホームページへの意見感想を furougawa@mods.jp にお寄せ下さい

生まれは東京都練馬町、埼玉県西部を流れて川越市で新河岸川に合流し、隅田川、荒川一帯の大河川です。かつて都市化の波が私の廻りにも押し寄せた時、水は汚れ、岸辺はけがされ無様な姿をたてましたが、近年は流域市民の熱い思いに支えられ、生まれ変わろうとしています。

新河岸川・富士見江川合流点 ポケットパークの植樹

新河岸川と富士見江川の合流点にあるポケットパークは植栽の少ない殺風景な空間でした。(財)埼玉県生態系保護協会の富士見支部と上福岡支部では、このポケットパークへ生態系に配慮した植樹を行いました。

以下は上福岡支部の伊藤さんからのレポートです。



【日時】平成17年12月11日(日)
午前9時30分~10時30分

【実施】(財)埼玉県生態系保護協会
富士見支部、上福岡支部

【協力】富士見市公園緑地課

【許可】埼玉県川越県土整備事務所

【天候】曇り

【場所】埼玉県富士見市鶴馬



植樹後の記念撮影です。皆さんお疲れ様でした。

【内容および感想】

今回植樹したのは、クヌギ・コナラ・エゴノキの3種でした。作業中には、カワセミやタヒバリが近くを飛び交い、既存のサクラの木にはモズの「はやにえ」も見られ参加した人々を沸かせていました。新河岸川とその周辺の生態系の豊かさを改めて感じました。10年後、20年後の将来、この場所が自然の生態系を育むことができるスペースになっているよう、今後も見守っていききたいと思いました。



その1: まずは地面に穴を掘ります。ツルハン振る手も軽やかです。



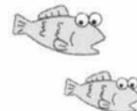
その2: 次に植樹をして添え木をあてがいます。皆で協力して行います。



その3: 最後に水分補給木に水をあげれば完成になります。



おまけ: こちらはモズのはやにえです。枝に刺さったバツが分かりますか?



なお、植樹の許可は埼玉県川越県土整備事務所より得、植樹した樹木ならびにそれを支える資材は富士見市公園緑地課より提供いただいたとのことでした。